

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和7年3月28日

事業所名：福岡市立心身障がい福祉センター にこここ園

保護者等数（児童数） 18 回収数 18

割合100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	お子さんの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか	14	4	0	0	車椅子やバギーの子が多いと横になるスペースが狭いと感じる。	同部屋を使うケースが多い時にはできるだけ密にならないように道具の工夫やスペースの確保に気を付けます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか	17	1	1	0		
	3-1	生活空間は、お子さんにわかりやすく「構造化された環境」【注 i】になっていると思いますか。	16	2	0	0	年度の途中で子どもが使う棚の配置が変わり、子どもがとまどっていた。	配置換えの目的やお子さんへの配慮について丁寧に説明していきます
	3-2	障がいの特性に応じて、事業所の設備等は、バリアフリー化やわかりやすい情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14	2	1	1	トイレの設備、スペースが狭く動線が悪いと感じる。	R7年度に福岡市によるトイレ改修が計画されており、お時間がもう少しかかりますが改善していくと思います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていますか。また、お子さん達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	15	3	0	0	駐車場が広がってくれたら助かります。	駐車場についてはご不便をかけております。現状での対応にご理解ください。
適切な 支援の 提供	5	お子さんのことを十分に理解し、お子さんの特性等に応じた専門性のある支援を受けられていると思いますか。	15	2	0	0	肢体不自由で通園しているのにリハビリが週1回なのは少ない。	個別は週1回ですが、訓練士がクラスに入り、食事や集団療育の中で支援をし関わらせていただいています。
	6	園が公表している「年間カリキュラム」【注 ii】は、園の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16	0	0	1		
	7	お子さんのことを十分理解し、お子さんと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、「児童発達支援計画」【注 iii】（年間・半期の目標、まとめ等）が作成されていると思いますか。	17	0	0	0		
	8	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」【注 iv】に示された支援内容からお子さんの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15	1	0	1	状況によりそって皆さんで最善策を考えていただいていたました。	お一人おひとりに合わせた発達支援ができるように取り組んでまいります。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	17	0	0	0		
	10	園の「活動プログラム」【注 v】が固定化しないよう工夫されていると思いますか。	17	0	0	0		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のお子さんとは活動する機会がありますか。	8	4	4	2	地域の保育園の子が公園に行く時間に一緒に公園を利用するなどできないかと思います。交流の機会があるといいです。	昨年度から隣の保育園の園庭利用を開始しました。保育園の方針、都合も伺いながら可能な交流の形を検討していきます。

保護者への説明等	12	契約時に、運営規程、年間カリキュラム、利用者負担額等について丁寧な説明がありましたか。	16	0	0	1		
	13	「児童発達支援計画」（年間・半期の目標、まとめ等）を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17	0	0	0		
	14	園では、家族に対して家族支援プログラム（「ペアレント・トレーニング」【注vi】等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15	1	0	2		
	15	日頃からお子さんの状況を保護者と伝え合い、お子さんの健康や発達の状況、課題について共通理解ができていますか。	18	0	0	0		
	16	定期的に、保護者に対して面談や、子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	17	0	0	1		
	17	園の職員から、共感的に支援をされていると思いますか。	18	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がなされていますか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がなされていますか。	14	3	0	1	保護者会の活動の意味をもう一度共有し、見直す時期に来ていると思う。園として必要と思うのであれば周知をしっかりとしてほしい。	働く保護者の方も増えており、今後の保護者会の在り方についても保護者の方と一緒に考えていきたいと思っています。
	19	お子さんや家族からの相談や申入れについて、「対応の体制が整備」【注vii】されているとともに、お子さんや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16	2	0	0	相談支援員さんと個別で話せる機会がもう少し多くほしかった。親子通園なので時間が取れず通園時間内にできるとありがたい。	通園の中で親子での療育時間が多くを占めてしまうため難しいこともありますが、面談が必要な方は可能な限り調整します。ご相談ください。
	20	お子さんや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	18	0	0	0		
	21	定期的に、通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果がお子さんや保護者に対して発信されていますか。	12	1	1	4		
22	個人情報の取扱いに十分留意されていると思いますか。	15	1	0	2			
非常時の対応	23	園では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	16	0	1	1	マニュアル全てのコピーを全員に配布していると思う。訓練はもっと様々なパターンを予想したものだと安心です。	マニュアルの配布に関しては利用者の方が分かりやすいものを検討しています。訓練についても参考にさせていただきます。
	24	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われていますか。	16	1	0	1		
	25	お子さんの安全を確保するための計画について周知される等、安全確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16	1	1	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した場合、速やかな連絡や状況の詳しい説明がされていると思いますか。	15	1	0	2		

満足度	27	おさんは通園（通所）を楽しみにしていますか。	はい	やや楽しみにしている	どちらともいえない	いいえ	わからない	あいあいに行くことを子どもも理解して楽しみにしている。ジョイント保育で着脱の練習も取組み、自信につながっている。	園での療育を楽しんでいらっしゃること、また繰り返しの取組が積み重なっていることを嬉しく思っています。
			14	2	1	0	1		
	28	おさんは安心感をもって通所されていますか。	はい	やや安心している	どちらともいえない	いいえ	わからない		
			15	2	0	0	1		
	29	事業所の支援に満足していますか	満足している	やや満足している	どちらともいえない	不満である	わからない	本人も母も楽しく通園でき、とても満足です。	お言葉ありがとうございます。
			15	3	0	0	0		

(注釈)

- i 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、机や本棚の位置やついたての使用などで刺激を整理し、おさん本人がその場所で何をしたいかをわかりやすくする工夫です。
- ii 「年間カリキュラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。
- iii 「児童発達支援計画」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標とその達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載した計画のことです。これは、児童発達支援センターの児童発達支援管理責任者が作成します。
- iv 「児童発達ガイドライン」は、児童発達支援の提供すべき支援として、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」を規定しています。  
本人支援とは、子どもが将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるよう「健康・生活」、「運動・感覚」、「認知・行動」、「言語・コミュニケーション」、「人間関係・社会性」の5つの領域での支援のことです。  
家族支援とは、おさんが安定して育ち、暮らしていくことを目的として、家族が安心して子育てを行うことができるよう、様々な家族の負担を軽減していくための物理的・心理的な支援を行うことです。  
移行支援とは、あなたのおさんが、お住いの周囲の一たちから理解され、家族として安心して地域参加するための支援のことです。
- v 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。おさんの特性や発達の課題等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。
- vi 「ペアレント・トレーニング」は、保護者がおさんの行動を観察しておさんの特性を理解したり、特性を踏まえた褒め方等の関わりのコツを学ぶことにより、おさんが適切な行動を獲得し、保護者がポジティブな気持ちで子育てに向かうことを目標とした家族支援です。
- vii 「対応の体制の整備」は、保護者が事業所に対して、相談や「こうしてほしい」というお願いをする際に、誰に、どこにお話をすれば良いか、が決まっていて、それを保護者に知らされていることも含まれています。また、対応とは、相談やお願いに対して、迅速かつ適切な対応をすることだけでなく、対応の必要がないことや対応できない事情について保護者が理解できる説明を行うことも含まれます。

.....